



## 平田直巳ごあいさつ 「地域の声をカタチに」を着実に



磐田市議会議員  
平田 直巳

議員として活動をさせていただき、4年目となりました。

現在、議会運営委員会と総務委員会、予算決算委員会に所属しています。議会の運営に関することや、当局から上程された予算・決算の審議や条例の改正、請願等の審議を行い、総務委員会での所管事務調査では、「防災・減災について」の調査・研究に取り組んでいます。

さて、令和6年6月の定例議会で「磐田市みんなが主役のまちづくり条例」が可決されました。これは「自らのまちは自らの手で」

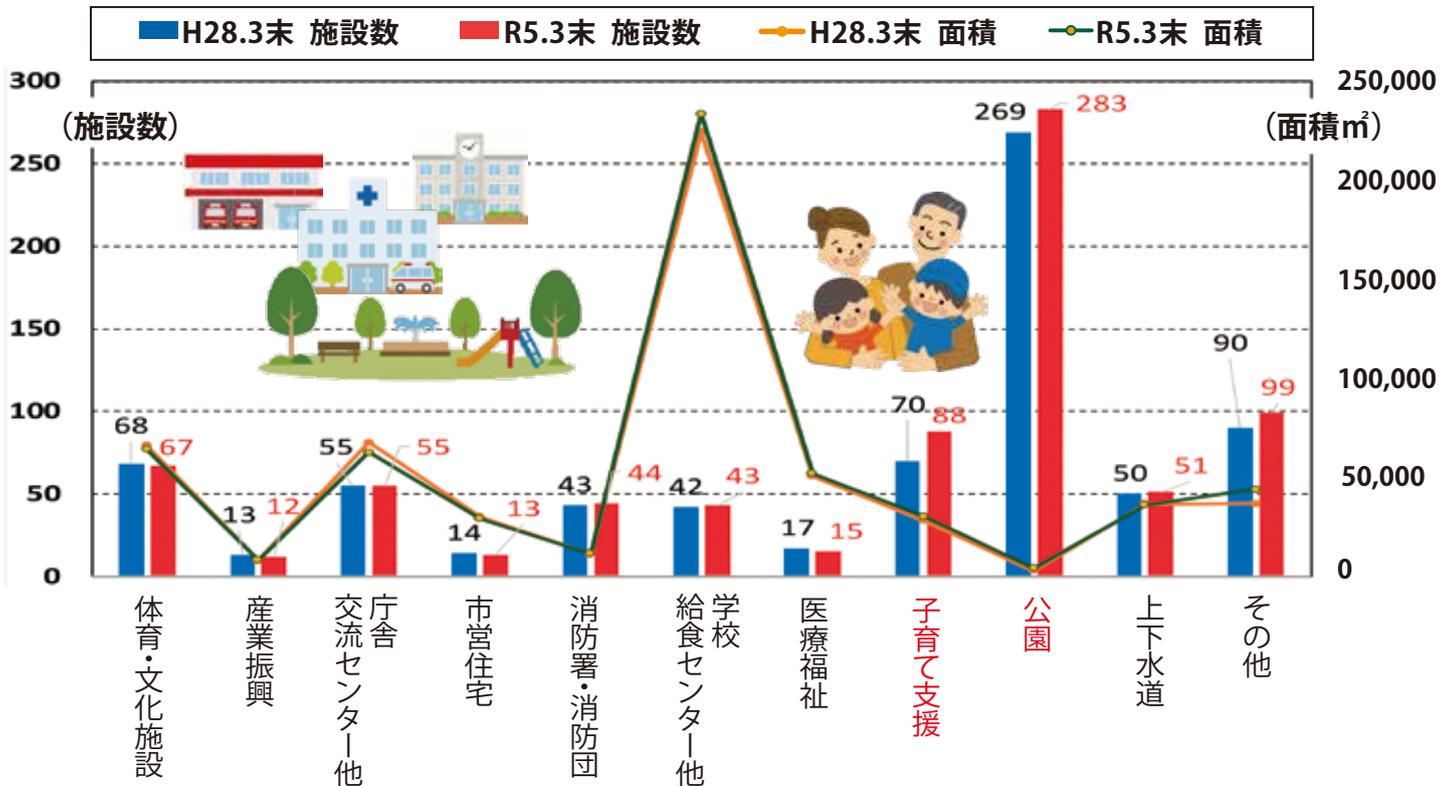
という意識を持ち、一人ひとりが主役となって地域活動に携わることで、持続可能な地域社会の実現を目指すことを目的としています。市民の方々と一緒に、自分たちの地域は自分たちで作っていくことにさらなる努力を注いでまいります。

そして、活動の基本を「地域の声をカタチに」として日々取り組み、少しずつですが、成果を出す事が出来るようになりました(裏面「3.活動報告」に一部掲載)。市民の方々からの要望や課題、提案等を聞かせていただき、課題とゴールを明確にしながら、市や県の当局へ依頼し調整を行い、結果にこだわって活動しています。

引き続き市民の皆さんの声を聴き、どう解決していくかを考えて、将来にわたって安心・安全に暮らし続けることができる磐田市をつくっていただけるように「地域の声をカタチに」を着実に進めてまいります。



## ■磐田市の公共施設(平成28年3月との比較)



磐田市の公共施設は、全体ではこの8年で731施設から770施設に39施設が増えています。大きな変化点は、「子育て支援施設」で、主に「放課後児童クラブ」で21施設が増加しています。また、「公園」も増えています。主に「宅地開発での緑地公園等」で14施設が増加しています。

生産年齢人口の減少に伴う税収の減少という厳しい財政状況を踏まえれば、今ある施設のすべてを同じ規模で建て

替えることは非常に困難であると考えられます。

そこで「磐田市公共施設等総合管理計画」では、公共施設の長寿命化、集約化や複合化に取り組み、整備コストを縮減するとしています。また、総量圧縮のみで持続可能な施設運営を行うには床面積を約10.1%縮減する必要があると推計しています。

# 1.議会報告 (令和6年 1月以降)

## (1) 令和6年2月定例会 2月15日～3月22日 (37日間)

- ① 議案第1号から第40号の審議
- ② 令和6年度の予算審議(1,454億758万8千円) 過去最大予算
  - 1) 一般会計予算 742億4千万円(令和5年度当初予算701億1千万円)
    - ・海岸防潮堤の早期完成(令和8年度完成) 34億9,843万5千円
    - ・向陽学府小中一体校 9億8,069万5千円
    - ・企業立地に対する支援(磐田IC付近) 6億7,982万円
    - ・省エネ家電買い替え促進キャンペーンの実施 1億円 他
  - 2) 特別会計予算 (駐車場、国民健康保険、後期高齢者医療保険、介護保険等) 317億2,414万2千円
  - 3) 企業会計(水道事業、下水道事業、病院事業) 394億4,344万6千円
- ③ 「議磐田市健幸づくり及び地域医療を守り育む条例」(議員発議)の制定 他

## (2) 令和6年5月臨時議会 5月17日～5月24日 (8日間)

- ① 議案第41号から第49号の審議
- ② 議会の副議長をはじめ、各委員会の正副委員長の選出 他

## (3) 令和6年6月定例会 6月14日～7月11日 (28日間)

- ① 議案第50号から第66号の審議
- ② パレスチナでの即時停戦を求める意見書の採択についての請願 他

# 2.一般質問 (令和6年6月定例議会)

## 1.地域の安心・安全について

**質** 天竜川河口部堤防の国土交通省による耐震対策の検証の状況と結果は。

**答** 令和5年度に実施したレベル2地震動に対する詳細な耐震性能照査の結果が、国からまだ示されていないが、国からの報告があった段階で必要な対応を考えていく。

**質** 海岸防潮堤整備の市の事業の進捗状況と課題は。

**答** 本年度末の進捗率は約61%を見込んでおり、計画どおり順調に整備を進めている。課題は、地元住民や工事従事者等の安全を確保しつつ、効率を高めていくことである。

**質** 海岸防潮堤整備の県の事業の進捗状況と課題は。

**答** 施工主体の静岡県からは、計画どおりに進捗をしており、令和8年度に市施工分が完成をした後、令和9年度中に完成できるように、予算確保に努めていくと聞いている。本市としては、津波対策事業の事業促進について、引き続き県事に要望をしていく。

## 2.市民の健康について

**質** 带状疱疹ワクチン接種費用の助成についての見解は。

**答** 近年、県内においてワクチン接種費用への助成を始める市町が増えていることは承知している。国においても、現在ワクチンに関する有効性等に係る議論が進められていることから、引き続きその動向を注視しつつ、助成の在り方を考えていく。

平田直巳(せいわ会) 昭和34年1月生 磐田市豊岡(旧竜洋町)

**経歴** 浜松日体高等学校、中央大学、エンシュウ(株) 旧竜洋町消防団元団長、竜洋西小学校元PTA会長、竜洋中学校元PTA会長、磐田市まとい会副会長、竜洋空手スポーツ少年団長、日本空手協会竜洋支部長、日本空手協会静岡県本部理事



日々の活動はこちらから! 平田直巳facebook▶

## 3.幼稚園、保育園、こども園について

**質** 幼児教育・保育推進計画により改善できた点とできていない点は。また、課題は。

**答** 改善できた点は、公立園の統合民営化の推進やこども園化、公立保育園における土曜保育の1日実施、公私立園の合同研修を通じた連携強化と、幼児教育・保育の質の向上などである。改善できていない点は、再編計画が定まっていない園があること。課題については、老朽化をしている園舎や設備への対応、少人数化が進む中での幼児教育・保育の推進、職員の労働環境の改善などである。

**質** 幼稚園や幼稚園型認定こども園を幼保連携型認定こども園として整備していく必要があると考えるが、市の見解及び課題は。

**答** 入園調整中児童が多い地域の公立園を、ゼロ歳から5歳児までを預かる幼保連携型認定こども園にしてきた。課題は、保育時間が延びることによる保育士確保と、少子化が進む中での小規模保育事業所や保育園などの私立園との共存である。幼保連携型認定こども園の整備スケジュールは、令和7年と8年の年度当初に、民営化により二つの園が開園する予定である。園舎の老朽化が進んでいる園については、保護者等の御意見を伺いながら、スケジュール等を具体的に示すことができるよう取り組んでいく。

**質** 現在、公立園が21園、私立園が35園である。公立園の在り方についての見解は。

**答** 地域において、公立園が果たすべき役割を勘案し、全ての園を民営化する考えはない。今後も公立園が適切に機能するよう、正規職員は毎年一定数を確保していく予定である。

# 3.活動報告

地域の方々から多くの要望や提案等をいただき取り組んでいます。私自身も市民ファシリテーターとしての活動を通して、さまざまな対話の場に参加し、また、市民活動をされている方たちと毎月情報交換をさせていただく中で、地域課題の解決に向けて、研究・提案に取り組んでいます。そして、取組の一部が令和6年度で予算化されました。

(1) 消防団に機能別消防団員制度の導入……………1,204万8千円

消防団員が減少してもあらゆる災害に対応していくため、消防団員経験者を活用した機能別消防団員制度を導入する。



(2) 子どもの居場所の支援……………100万円

こどもの居場所づくり活動を行う市民活動団体を支援する。



(3) 学校給食費における地産地消の推進……………300万2千円

磐田市特産の農作物(海老芋、根深ネギ等)を学校給食に使用し、児童・生徒の郷土愛の向上・育成を図ると共に、地域内経済循環の拡大に繋げる。



(4) 不妊治療費助成の拡充……………2,022万4千円

先進医療分の治療費に加え、保険適用の一般不妊治療及び生殖補助医療の自己負担分も対象として助成し、早期治療に向けた環境を整える。



**引き続き、「地域の声をカタチに」にこだわって、将来の磐田市のために活動してまいります。**

～ 磐田市に関する情報は「磐田市ホームページ」をご確認ください ～